

2018年 美幌子ども自然体験キャンプ -1/2

2018年 8月 3日



低温から一変して暑い日々が10日程続いて小麦が焼け熟れして小麦の収穫作業が始まった8月初め。美幌町報徳の地で修養団による「美幌子ども自然体験キャンプ」が行われていた。今回は、小中学生の参加者と高校生リーダー合わせて60名程の大所帯。キャンプ日程の中日8月3日に農業体験として「肉牛見学」と「芋掘り体験」を企画提供しました。

キャンプ地の報徳会館は、女満別空港の南にあり空港に着陸する飛行機がこんなに真近に見えるロケーション。キャンプ地の隣からは、肉牛農家の牛の鳴声が聞こえて来る。



今まで考えも及ばなかった事ですが、6月に美幌商工会議所で開催された近江正隆氏による「農村ツーリズム研修会」を受講していたため「肉牛見学」をして貰う事ができました。キャンプ地の直ぐ隣が「肉牛農家」。

肉は食べても肉牛を見た事の少ない子供たちには、食育を伝える方法として生き物に触れて貰った方が分かり易い。見学の終わりに「食事の時には、牛たちの事もちょっと考えてみて下さい…。」

次の芋掘り体験に移動する途中、小麦の収穫作業中の大型コンバインを目にした子供達。



今回の「芋掘り体験」のキーワードは

- ・うし
- ・じゃがいも
- ・ごはん
- ・いのち
- ・いただきます
- ・ごちそうさまでした
- ・たべものをたいせつに

そして、三つの割ばし花器に挿した自然農法畑のひまわり。

2012年2月18日に伊豆の自然農法大仁農場で聞いた福島県喜多方市の水戸昇氏の講演。他の人がパワーポイントを駆使（苦使）しての発表の中、水戸さんの講演手法は今でも私の心に残り取り入れている。



時代は変わっても遠い昔から生き物としての人が、他のいのちを奪って取り入れ続けて自分のいのちを維持している事には変わりはありません。これからもそうです。

- 動物としてのいのち
- 植物の作物としてのいのち
- 花のいのち

体に入って私たちを生かしてくれるいのち
心に入って私たちを生かしてくれるいのち

2018年 美幌子ども自然体験キャンプ -2/2

2018年 8月 3日

【 肉牛見学 】



都会の高校生が修学旅行の一環として数人ずつ数軒の農家に宿泊して1日だけ農家の作業を手伝い食事・時間等を共に過ごす…。宿泊となると受入れ側は、気が引ける。

子どもたちに伝える事・感じて貰う事。出来るチャンスが無駄にしていないか？

何も大それた事をする必要は無い。出来る事をすれば良いのです。

私からの依頼を快諾してくれた高崎氏。親子で説明してくれました。

受入れ側農家として問題の一つは、防疫問題。

酪農家では、口蹄疫。畑作農家では、シストセンチュウ等。防疫の方法として、石灰で靴底の消毒をしてから施設や圃場に入って貰っています。



【 芋掘り体験 】



今回は、暑い陽射しを予想し日除けの下で私の拙い食育の説
芋掘りは、一グループ毎に順
験をしたら日除けの下へ戻って

修養団の方々と会場の設
営を済ませキャンプ地から
肉牛見学をして歩いて来た
子供たちを受入れ。



て日除けを張りました。
明を聞く子供たち。
番に圃場へ遣って来て収穫体
行きます。



突然私からの電話を受け
た杉沢氏も自分の仕事予定
をずらして子供たちの芋の
収穫体験をサポートしてく
れました。

